

解 答

①

問一 提供される情報が、ポイントを整理したわかりやすい「使える形」になっていないから。

問二 観察 問三 (あ) あらゆるところ (い) 根本的

問四 成功例をお手本に模倣することでうまくいくと考えている人は、状況変化を考慮できず、よりよい方法も探求しないので想定外のことに対処できないから。

問五 イ 問六 A ウ B エ C イ D ア

問七 (ア) 秘書 (イ) 手軽 (ウ) 結果 (エ) 注目 (オ) 拳

問八 イ

②

問一 晶子の母親の怒りが増し、美代子の両親への非難が激しくなること

問二 家を貸してもらっているのに、家主の娘にわざとケガをさせること

問三 一 エ ニ ア 三 ウ 四 オ 五 イ 問四 迷う

問五 リレーで勝てば家族が家を失うことになり、負ければ仲間を裏切ることになる。いずれにせよ自分のせいで大切な人達に迷惑をかけるのでとてもつらくて、運動会に出たくないから。

問六 自分の子が侮辱されてまで他人に媚びへつらうのを嫌い、貧乏を恥じず、堂々と娘を信じ、何も気にせず思いっきり走れと応援してくれる気持ち。

問七 A エ B ウ C ア D イ 問八 エ

解 説

①

出典は、畑村洋太郎『畑村式「わかる」技術』。

問一 傍線部の直後に「現実にはこれらはあまり使われることがな」く、その「原因は、提供している情報が『使える形』になっていないからにはかな」らない、とあります。

問二 空欄の直前にはそれぞれ「ふだんからものごとをよく」「日頃から物事をよく」とあり、このあとの段落のはじめに「ものごとをよく観察する」とありますから、空欄には「観察」が入ります。

問三 傍線部の「それ」は、直前の「ものごとをよく観察する」ことを指します。(あ)、(い)の前後から、「日本中のあらゆるところで起こっている問題は、すべて根っこの部分にこの『三ナイ』という問題がある」と筆者が強調している部分に着目します。

問四 傍線部の直後に「成功例を真似」ても「想定外のことが起こって最後は必ずダメになる」とあります。「お手本を模倣することでうまくいくと考えている人は、やがてそれ以外の方法について『見ない』し『考えない』ように」な」り、さらに「過去にうまくいったものは、いつの時代のどんな状況でもそのまま使えると思い込」み、「よりよいやり方を探し求めることまでやめて『歩かない』ようにもな」るとあります。

問五 「茫然自失になる」ような「取り返しがつかない」「失敗」ですから、「致命的」が入ります。

問六 A＝例示、B＝並立、C＝逆接、D＝換言を表す接続語がそれぞれ入ります。

問八 最終段落に、「目的意識を持って、実際の体験の中で自分自身でなにかを感じたり自分の頭で主体的に考える」「人だけが」「本当の知力、本当の知識を体得できるし」「新たなものを創造できる」とあります。

②

出典は、森浩美『こちらの事情』。

問一 「晶子の母親」が「怒鳴り声」をあげ、「美代子」には「身に覚えのないこと」で両親を責めたてています。「火に油を注ぐような」とは、事態を悪化させることですから、晶子の両親の怒りが増長され、美代子の両親への非難が激しくなることです。

問二 傍線部の直前に「恩を仇で返すってこういうことよ」とあります。「こういうこと」とは「他の借り手を断ってまで」美代子の家族に家を「貸してあげた」のに、美代子が晶子に「わざと足を掛けて転ばせ」「ケガ」をさせた、ということ指します。

問五 「リレーで晶子を負かせば、きっとまた難癖をつけられ」、自分のせいで「家族はここから追い出されるに違いない」と思い悩む美代子は、「運動会が中止になればいいのに」と願います。運動会では、家族を助けるために、「仲間を裏切ってしまうかもしれない」と思い、「リレーのメンバー」の「顔も見られな」いほど苦しまます。「家族」も「仲間」も大切に思う美代子の心の葛藤が、つい「嘘」をつかせてしまいます。

問六 「この家のことなら、何も心配することはない。父さんは、自分の子が侮辱されてまで他人に媚びへつらうのはイヤだ」「貧乏人だからって恥じる気もない」「お前は何も気にせずに思いっきり走れ」と「目を細めて穏やかな笑顔で言った」父の言葉に美代子を思う気持ちがこめられています。